

## 母性看護学

### 【科目構成とねらい】

母性看護学は、看護の対象である人間を「性と生殖に関する健康と権利—リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」の視点からとらえ、人間のライフサイクルを通して健康を維持・増進することを目的としている。人間が持つ母性・父性の役割・機能を健全に発揮できるようにするために、人間の一生、すなわち胎児期から乳幼児期、思春期、成熟期、更年期、老年期に至るまでの女性とその家族を対象として関わる科目である。

少子高齢社会の中で、次世代の健康への支援は、重要な社会問題となっている。また、社会の最小単位である家族が再編整備され、健やかに機能するためには地域社会における多様な家族の在り様を踏まえつつ、周産期を含めたライフステージ各期の女性及びその家族への支援を考えるべきである。国においても様々な政策を策定し、女性の社会への参画を推進し、且つ、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりを行っている。このような背景をふまえて、以下のように学習していく。

### 「母性看護学概論」

母性看護学の概念とその基盤となる社会の動向について学習する。基礎となる概念として、母性および父性の概念、母子関係と家族発達、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、社会の変化に伴う母性看護の変遷とありかたについて学ぶ。また、セクシュアリティの視点から見た個と家族の発達や課題について学ぶ。ライフサイクル各期の中でも思春期、成熟期、更年期、老年期に焦点を当て、各期の健康と看護、その連続性について学ぶ。人間の性と生殖に関する問題を抱える人達も対象とし、その看護の必要性についても学ぶ。形態機能学と関連させ、人間の性行動について学ぶ。さらに母性看護では、生命そのものの尊厳や神秘性に触れることも多いため、生命倫理や看護倫理についても学びを深める。

### 「妊婦・産婦の生命の育みを支える看護」

妊婦・産婦とその家族の看護に必要な学習をする。妊婦を理解するために、妊娠各期における胎児の発育と、妊娠が母体に及ぼす身体的・心理的影響を学ぶ。また、家族構成の変化に伴う妊婦の夫や家族の役割の変化を含む社会的な側面について学ぶ。そして対象の理解を踏まえた妊婦およびその家族の看護や保健相談の方法を具体的に学ぶ。産婦の理解のためには、分娩の生理と経過、心理的特徴を学び、家族を含めた看護を学ぶ。その上で妊・産婦の看護に必要な看護技術について学習する。正常妊産婦を中心に、ハイリスク時の観察と看護についても学ぶ。

### 「褥婦・新生児の生命の育みを支える看護」

褥婦と新生児の看護に必要な学習をする。産褥期の身体的・心理的・社会的特徴を学び、褥婦を理解したうえで看護過程や保健相談の方法を学習する。また、新生児の解剖的・生理的特徴と看護を学ぶ。さらに、母子相互作用を促し絆を深め、褥婦と夫をはじめとする家族が、再編された家族状況に適応し、今後の育児を地域社会の中で円滑に行えるような支援システムについても学ぶ。その上で褥婦・新生児看護に必要な看護技術について学習する。また、正常褥婦・新生児を中心に、正常逸脱時の看護についても学ぶ。妊娠・分娩・産褥は、疾病ではなく生理的現象であるが、正常に経過するように援助するには、生理的な経過を逸脱していないかの判断や合併症の早期発見のため、疾病についての知識を必要とする。そのため、既習の主な疾病の病態生理と治療についての知識を活用し、ハイリスク状態にある人の生活を支える看護について学ぶ。新生児期は、胎外生活に適応する過程で異常が発症しやすい対象である。新生児の異常については小児看護学の対象となるが、出生直後や早期新生児にみられ、一般的に周産期病棟で治療・看護される異常について学ぶ。

### 「生命の育みを支える看護の展開」

母性看護の特徴であるウェルネス志向について学び、正常な経過をたどる褥婦ならびに正常逸脱時の事例についても学習する。新たな家族が誕生し、家族も含め、想定していた役割変

化が現実となる中、母児の心身の変化を踏まえながら、地域社会の中で健やかに家族が生活を営むための援助の視点についても学ぶ。

### 【目的】

性の側面を踏まえて、総合的に人間を捉えるとともに、妊娠・分娩・産褥・新生児期にある人とその家族の看護に必要な知識・技術・態度を学ぶ。

### 【目標】

1. 母性看護の概念とその基盤となる社会の動向を理解できる。
2. 母性看護の対象となる人のライフサイクル各期の特徴と看護を理解できる。
3. 妊娠・分娩・産褥・新生児期にある人の特徴と看護を理解できる。
4. 周産期にある人や母性看護の対象者への看護実践の基盤を身につける。
5. 様々な場や状況にある母性看護の対象が地域社会において、より良く適応するための支援システムについて考えられる。

### 【構成および計画】

科目	単位数	履修時期		
		1年次	2年次	3年次
母性看護学概論	1	○		
妊婦・産婦の <sup>いのち</sup> 生命の育みを支える看護	1		○	
褥婦・新生児の <sup>いのち</sup> 生命の育みを支える看護	1		○	
<sup>いのち</sup> 生命の育みを支える看護の展開	1		○	

## 授業計画

科目名	母性看護学概論		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次	
科目 目標	1. 母性看護の基盤となる概念と母子保健の動向・関係法規について理解する 2. 女性のライフサイクル各期の特徴と健康問題と看護について理解する						
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>			
第 1 回	母性看護の概念	母性、父性・親性の概念と定義 家族機能・家族の定義 母性看護におけるウェルネスの考え方 女性を中心としたケア、家族を中心としたケア	講義	専任教員*			
第 2 回	人間の性	人間の性 性の多様性 セクシュアリティ (セックス、ジェンダー)	講義	専任教員*			
第 3 回	母性看護と倫理	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 性と生殖に関する倫理的課題	講義	専任教員*			
第 4 回		母性看護における倫理	講義	専任教員*			
第 5 回	母性保健の動向	母性看護の歴史の変遷 母子保健統計 (世界・日本)	講義	専任教員*			
第 6 回		母性看護に関する法律 母子保健施策 <small>*子育て世代包括支援システム</small>	講義	専任教員*			
第 7 回		国際化と母性看護 現代社会と今後の日本の展望	講義	専任教員*			
第 8 回		女性のライフサイクルの連続性と家族 現代女性のライフサイクル 母性看護における対象把握の視点	講義	専任教員*			
第 9 回	ライフサイクル 各期の特徴と看護	思春期の特徴 身体的特徴・第二性徴 心理的・社会的特徴と家族	講義	専任教員*			
第 10 回		思春期の健康問題と看護 月経異常、性感染症・人工妊娠中絶 性教育・避妊・性感染症予防	講義	専任教員*			
第 11 回		成熟期の特徴 身体的・心理的・社会的特徴 (家族役割含む)	演習	専任教員*			
第 12 回		成熟期の健康問題と看護 不妊症、不育症、女性生殖器疾患 家族計画・受精調節法	講義	専任教員*			
第 13 回		更年期・老年期の特徴 身体的・心理的・社会的特徴 (家族役割含む)	講義	専任教員*			
第 14 回		更年期・老年期の健康問題と看護 更年期障害 性ホルモン分泌低下に伴う疾患と看護	講義	専任教員*			
第 15 回		評価					
テキスト 参考図書		系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学①			評価 方法	筆記・レポート等	
備考	事前・事後学習、学習上の留意点等						

### 授業計画

科目名	妊婦・産婦の <sup>いのち</sup> 生命の育みを支える看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 妊娠経過と看護について理解する 2. 分娩経過と看護について理解する 3. ハイリスク状態にある妊産婦の看護について理解する					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	妊婦の看護	妊娠の生理 胎児の発育とその生理	講義	専任教員*		
第 2 回		妊婦の生理的変化 妊婦・家族の心理的・社会的変化と適応	講義	専任教員*		
第 3 回		妊婦の健康管理・セルフケア支援 症状に合わせた日常生活援助	講義	専任教員*		
第 4 回		出産・育児準備への支援 親・家族役割準備への支援 (切れ目ない支援)	講義	専任教員*		
第 5 回		妊婦の診察 (レオポルド触診法、胎児心音聴取) 妊婦疑似体験	校内 実習	専任教員*		
第 6 回	産婦の看護	分娩の経過 産婦の生理的変化 産婦・家族の心理的・社会的状態	講義	専任教員*		
第 7 回		産婦と胎児の健康管理 分娩各期の看護	講義	専任教員*		
第 8 回		分娩各期の看護	講義	専任教員*		
第 9 回		産痛緩和、分娩時の呼吸法	校内 実習	専任教員*		
第 10 回		母児の安全	講義	専任教員*		
第 11 回	ハイリスク状態 にある妊婦・産 婦の看護	<安静・観察が主に必要な人の看護> 切迫流産、切迫早産 前置胎盤	講義	専任教員*		
第 12 回		<積極的な治療が必要な人の看護> 妊娠期の感染症 妊娠悪阻 妊娠貧血 糖代謝異常妊娠 妊娠高血圧症候群	講義	専任教員*		
第 13 回		前期破水 胎児機能不全 陣痛異常 (微弱陣痛・過強陣痛)	講義	専任教員*		
第 14 回		<緊急処置が必要な人の看護> 吸引分娩、帝王切開術 産科出血 常位胎盤早期剥離	講義	専任教員*		
第 15 回	評価					
テキスト 参考図書	系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②			評価 方法	筆記・レポート等	
備考	事前・事後学習、学習上の留意点等					

## 授業計画

科目名	褥婦・新生児の <sup>いのち</sup> 生命の育みを支える看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 産褥経過と看護について理解する 2. 新生児の経過と看護について理解する 3. 褥婦・新生児の看護における安全について理解する 4. 施設退院後の家族の看護について理解する 5. ハイリスク状態にある褥婦・新生児の看護について理解する					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	褥婦の看護	産褥の経過 褥婦と家族の心理 母児の愛着形成過程	講義	専任教員*		
第 2 回		褥婦のセルフケア セルフマネジメント教育 患者教育・健康教育	講義	専任教員*		
第 3 回		家族を含めた対象者中心の看護、家族への看護 家族の役割適応とセルフケア能力	講義	専任教員*		
第 4 回		褥婦の安全 症状に合わせた日常生活援助	講義	専任教員*		
第 5 回	ハイリスク状態 にある褥婦の看護	治療的な援助が必要な褥婦の看護 子宮復古不全 産褥期の発熱(産褥熱、乳腺炎) 児 を亡くした褥婦・家族への看護	講義	専任教員*		
第 6 回	新生児の看護	新生児の生理的変化	講義	専任教員*		
第 7 回		養育するための観察・援助 (栄養・排泄・清潔・母児関係)	講義	専任教員*		
第 8 回		新生児の安全 新生児の検査	講義	専任教員*		
第 9 回	ハイリスク状態 にある新生児の 看護	治療的な援助が必要な新生児の看護 高ビリルビン血症 新生児・乳児ビタミンK 欠乏性出血症	講義	専任教員*		
第 10 回	褥婦の看護技術	褥婦の全身観察	校内 実習	専任教員*		
第 11 回		授乳				
第 12 回	新生児の看護技 術	新生児の観察	校内 実習	専任教員*		
第 13 回		新生児の沐浴・清拭				
第 14 回	母児への看護 施設退院後の看護	家族と地域社会の関係性 地域ケア体制づくり、地域ケアシステム チーム医療、多職種連携、訪問看護	講義	専任教員*		
第 15 回	評価					
テキスト 参考図書	系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②			評価 方法	筆記・レポート等	
備考						

## 授業計画

科目名	いのち 生命の育みを支える看護の展開		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 正常な妊婦・褥婦の看護展開について理解する 2. ハイリスク状況にある褥婦・新生児の看護展開について理解する					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員		
第 1 回	正常な経過の妊婦・褥婦の看護展開	母性看護における看護過程の特徴 ウェルネス型看護診断	講義	専任教員*		
第 2 回		case learning① 妊婦の看護	講義	専任教員*		
第 3 回		case learning② 褥婦・新生児の看護 情報収集 アセスメント *褥婦及び家族の役割適応含む	演習	専任教員*		
第 4 回		case learning③ 褥婦・新生児の看護 マタニティ診断 介入計画の立案 *退院後家族再編時の適応促進視点含む	演習	専任教員*		
第 5 回		case learning④ 褥婦・新生児の看護 実施 評価	演習	専任教員*		
第 6 回	ハイリスク状態にある褥婦・新生児の看護展開	case learning：帝王切開術を受けた褥婦・新生児の看護	講義・演習	専任教員*		
第 7 回		case learning：死産に至った褥婦・家族の看護 *グリーフケアを含む	講義・演習	専任教員*		
第 8 回	評価					
テキスト 参考図書	系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 マタニティ診断ガイドブック 日本助産診断実践学会 第6版 医学書院		評価 方法	筆記・レポート等		
備考						